

いつも、インシデント報告ありがとうございます

2017.12.01

# 京大病院医療安全情報96

## 【ドレナージ用胃管チューブの誤った使用】

### 事例【ドレナージ用胃管チューブで栄養剤投与】

術後、セイラム Sampチューブを胃内減圧・排液目的で留置していた。状態が安定し、経管栄養剤を投与することになった際に、栄養チューブへ入れ替えることなく、セイラム Sampチューブを用いて栄養剤を投与していた。

### ドレナージ用胃管チューブ（セイラム Sampチューブ®）



吸引・排液・排気・薬液等の注入及び洗浄又は異物除去を目的として、短期的に使用するもの



## 注意

セイラム Sampチューブ®の添付文書より

- ◆ 可塑剤を含んでいるため、留置中に可塑剤が溶出し、留置後約1週間からチューブの硬化が始まる。
- ◆ 留置期間が2週間を超えないように、チューブを交換する。
- ◆ 胃内減圧用チューブのため、使用目的以外の使用は避ける。  
(植物油を含む薬剤は可塑剤の溶出を促進させるため)



硬化したチューブを抜去する時に、  
食道粘膜を損傷する可能性があります

# 経管栄養を開始する時は 栄養チューブに入れ替える

京大病院で採用されている経鼻栄養チューブ（2017年11月現在）

	スタイレットなし	スタイレットあり 錘（おもり）あり
採用品	成人用： ファイコン フィーディングチューブ ジェイフィード栄養カテーテル W-EDチューブ 乳児用： ジェイフィード栄養カテーテル	ニューエンテラル フィーディング チューブ
利点	スタイレットがないので、臓器損傷のリスクは少ない。	操作性が良い。 自然落下により誘導される。
欠点	操作性に劣る。	気管への迷入、肺損傷、食道損傷などのリスクが高まる。



詳細については  
医療安全管理マニュアル  
経管栄養療法の安全管理指針（第1.0版）  
をご参照ください！